

ジオパークで
地域に活力を!!

ジオパーク推進だより

下仁田町自然史館(ジオパーク推進室)
下仁田町大字青倉158-1
☎70-3070 FAX67-5315
<http://www.shimonita-geopark.jp/>

行事報告

6月1～2日の2日間に渡り『化石研究会下仁田総会』が行われました。

大勢の方にお越しいただき、1日の化石研究会終了後にはジオツアーも実施し下仁田ジオパークをより多くの方に知っていただきました。

6月4日(火)第2回世界遺産候補史跡荒船風穴・下仁田ジオ応援団を開催しました。14名の方にご参加いただき、前回に続き文化ホールにて学習しました。

6月14日(金)練馬区立立野小学校と柏市立中原小学校のそれぞれ5年生が下仁田町自然史館の見学や、青岩公園にて川原の石の体験を行いました。

6月18日(火)第3回世界遺産候補史跡荒船風穴・下仁田ジオ応援団を開催しました19名の方にご参加いただき今回は実際に現地へ行き、ガイドをされている方の実演など参加型の学習会となりました。

6月21日(金)練馬区立旭丘小学校の6年生が青岩公園にて川原の石の体験を行いました。



▲川原の石体験学習



▲第3回学習会

自然史館の利用他

6月8～9日 新潟大学巡検

ネギとコンニャク・ジオパーク 山岳信仰の山「秋葉山」

秋葉山から五州(ごしゅう)の尾根にはたくさんの石造物があり、信仰心の厚い地域であることは先月ご紹介させていただきました。それでは石造物を作り、尾根上まで持ち上げた労力と財力はなんであったのかに興味を持ち、過去のデータから推測してみました。

明治11年に発行された上野国郡村誌に西野牧村(旧西牧村)の産業構造などの記載があります。

馬居沢は旧名でいくと森平村にあたり、西牧14ヶ村には現在の上小坂漆萱と旧松井田町の入山、恩賀が含まれます。西牧関所を守るためには峠を越えた14ヶ村で守る必要があったようです。

上野国郡村誌によると主生産物は生糸・麻・楮の皮・炭などが主生産物、産業であったと記されています。14ヶ村の記録を旧森平村(馬居沢)と置き換えるのは強引ですが、馬居沢地区の産業も同様であったと推測され、こんにゃく生産が普及するまでは、養蚕・製糸が主産業であったと思われます。

これは西牧地区に限ったことではなく、組合製糸で栄えた下仁田町全体の産業構造でもあったと思われます。養蚕は価格変動も大きく、また天候に左右される桑の生育状況、病虫害による当たりはずれも大きかったため、余計に信仰深くなったのかもしれませんが。最後に秋葉山登山の後、地元の人との懇談の中で印象的であり、かつ、戦後の地域産業の裏付けの話を聞くことが出来ました。

「四反歩の蒟蒻畑があれば十分な生活が出来た」そのため他の作物への転換が遅れてしまったと話されていました。また、一代交雑種(F1)の養蚕を作るため、雌雄別飼いの養蚕を行い、繭量ではなくさなぎの生存率で繭価が決まり、かなりの高収入を得られたとも話されていました。

蚕種製造のためには河川近くの風通しのよい砂地の畑での桑が必要不可欠であったので、馬居沢川の清流沿いの畑は適地だったのかも知れません。

馬居沢地区には河川沿いにはしる旧道にも多くの石造物を見ることが出来ます。なかにはちょっと変わった双体道祖神や「みるめ神社」など聞きなれない神社なども見ることが出来ます。



▲秋葉山石造物

行事予定 下仁田こんにゃく夏祭りにブース出展

日 時:8月14日(水) 午後1時～午後5時
 場 所:こんにゃく広場
 内 容:世界遺産候補荒船風穴と下仁田ジオパークの資料展示
 応援団による解説ガイドとミニジオツアー
 『ミニジオツアー』



▲青岩公園

①午後2時出発(約90分) ②午後3時出発(約90分)
 青岩公園→川井断層(中央構造線)→下仁田層密集化石を周り、各ジオサイトにて
 ガイドの解説が受けられます。※参加希望の方は、出発10分前までにご集合ください。

『下仁田ジオパーク2周年記念イベント』

日 時:9月8日(日) 9時～14時
 集 合:下仁田町自然史館
 内 容:南牧川の川砂からパンニング皿などを使い、上流より流れてくる宝石
 を見つけましょう!昼食は下仁田かつ丼をお召し上がりいただきます。
 費 用:500円(昼食代)
 申 込:昼食の注文等の都合がありますので、ご参加いただける方は必ず
 前日までにお申し込みください。



▲1周年記念イベントの様子

世界遺産候補史跡荒船風穴・ジオ応援団「ガイド養成講座」開催のご案内

世界遺産候補史跡荒船風穴や、下仁田ジオパークの魅力伝えるためのガイド(解説員)養成講座を行います。
 昨年度からの継続事業ですが、今年度はより深く、より実践に近い形で学習会を行います。新たに参加していただ
 ける方も大歓迎ですので、ぜひご参加ください。

回数	日程	時間	会場	内容
第5回	9月2日(月)	午後1時半～3時	文化ホール2階研修室	①「日本列島の成立」 ②「下仁田の大地の生い立ち」
第6回	9月24日(火)	午後1時半～3時	文化ホール2階研修室	①「下仁田こんにゃく水車の歴史」 ②「バーチャルジオツアー」
第7回	10月22日(火)	午後1時半～4時	下仁田町役場・青岩公園	①「川原の石の見方」 ②「模擬ガイド実習(青岩公園)」
第8回	11月5日(火)	午後1時半～4時	下仁田町自然史館	①「模擬ガイド実習 (クリッペ散策コース)」

問い合わせ/申込 ジオパーク推進室70-3070 下仁田町ふるさとセンター82-5345

※下仁田町自然史館では、午前9時から午後4時まで展示室を開放しています。ぜひお出かけください。

問い合わせ先 下仁田町自然史館(ジオパーク推進室) ☎70-3070

ふるさとセンターだより

ふるさとセンター展示紹介 町内に残る歴史資料と町民生活

ふるさとセンターの展示品が増えました。新たに
 増えたのは、並木栄治氏(南野牧)から寄贈された
 明治時代の教科書や日誌帳などです。特に、日誌は、
 明治のころの学生が日常を綴ったもので、当時の世
 相や学校生活を知ることができる貴重な歴史資料です。ぜひ、ご見学ください。



集めています「歴史資料」

下仁田町ふるさとセンターでは、歴史資料や品を集めています。古いものがありましたら、ご一報ください。全
 て引き取る訳ではありませんが、次代の子供たちに伝えるべき歴史資料は保管、展示させていただきます。
 ～下仁田の歴史を今に伝える～ ふるさとセンター ☎82-5345

世界遺産候補 国指定史跡 荒船風穴関連事業報告

◇世界遺産登録を目指し◇

下仁田町の「国指定史跡 荒船風穴」を含む「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、次期の世界文化遺産登録候補として推薦が決定されています。

今年の夏には国際記念物遺跡会議（イコモス）による審査が行われ、順調にいけば来年の世界遺産委員会において登録される予定です。



◇文化財の保存と管理◇

平成22年2月22日に国史跡として指定された荒船風穴は、その1ヶ月後に石積みの一部が崩落しました。今年度は、その部分の修復するため、復旧工事を行います。

これらは、学識者による専門家組織「史跡荒船風穴調査・整備委員会」で審議し、その後、文化庁の許可を経て、工法などが決定されるため、進捗が遅く見えるかもしれませんが、国民共通の文化財として指定されており、より慎重な対応が求められているためご理解ください。

◇近年の主な事業（史跡地内）◇

- ・史跡地及び緩衝地の用地買収
- ・保存管理計画策定（保存に関する方針と計画）
- ・調査・整備委員会の運営
- ・1号風穴、2号風穴、3号風穴の埋蔵文化財調査
- ・石積み復旧設計
- ・崩落石の石材調査（石材情報の管理）
- ・3次元測量調査
- ・冷風状況調査（温湿度計の設定とモニタリング）
- ・支障建物撤去
- ・支障木の伐採
- ・簡易看板設置事業

◇近年の主な事業（周辺環境）◇

- ・駐車場整備
- ・仮設トイレの設置
- ・見学路改修工事
- ・周辺森林環境整備（保安林リフレッシュ事業）
- ・案内看板設置

荒船風穴の歴史と価値

明治から昭和初期にかけ、日本における生糸の輸出は世界市場を圧巻し、それらを下支えしていた養蚕業は、国家形成の礎となった基幹産業でした。

荒船風穴は、電気冷蔵システムが普及していなかった時代に天然の冷風を巧みに活用し繭生産の急増に貢献した「蚕種貯蔵所」の代表的な場所として国文化財（史跡）指定されています。

現在でも操業当時と変わらぬ冷風環境が維持され、空気感を肌で感じることができる希少な史跡であり、それらに加え、一部の崩落はあるものの石積遺構が残され、日本最大規模を誇った風穴を現在に伝えています。

養蚕業における風穴を活用した貯蔵技術は、幕末から研究され、荒船風穴の起業は決して早い段階ではありませんでした。しかし、従来あった小規模経営の蚕種貯蔵に当時の技術の粋を結集し、大規模経営に加え、当時最新鋭であった通信・交通を最大限活用し、大きく商売を行いました。



◎ご連絡

8月から9月にかけて、石積み復旧工事を行います。

見学場所の変更（風穴脇通路見学規制・番舎跡解放）がありますので、ご理解ください。

ふるさとセンター（下小坂71-1）では、経営母体の春秋館の関連資料をはじめ荒船風穴の資料展示をしています。ぜひ、ご覧ください。

問合せ先 ふるさとセンター ☎82-5345